

危惧Ⅱ類(ⅤU)に指定され、他にも似たような環境があるにも関わらず釧根地方ではめったに出会うことができない希少種です。

コアニチドリ

根室半島の一部に分布する野生ランで、太平洋側沿岸のいつも水が染み出ている湿った窪地に、ウメバチソウやモウセンゴケな

オホーツク海側

知床の植物をお手軽に満喫できる絶景スポット

北見市 内田 暁友

知床半島のオロンコ岩は何度でも訪れたい場所だ。潮騒と海鳥の声を聞きながら海拔約60mの頂まで、高度感のある階段をイワヨモギやエゾシモツケなど岸壁の植物を見ながらのんびりと登ってみよう。やがて潮風がミヤマビャクシンやイブキジャコウソウの香りを運んでくると、もうすぐ階段は終わりだ。知床連山を見晴らす岩上は約1,000m²の平坦な草原で、縁を一周できる遊歩道がある。天気よければヒガシニホントカゲが一緒に歩いてくれるかもしれない。

草原といっても最近多いエゾシカが刈り込み、踏みならした芝生のような海岸草原ではない。この岩は未だエゾシカが登攀しておらず、エゾシカ増加以前の知床の海岸草原の姿を楽しむことができる。エゾゼンテイカやエゾノヨロイグサといったシカによる被食を受けやすい植物達ものびのびと暮らしており、まさに花の楽園といった趣だ。また、ヒグマもここを利用することは滅多にないと思われる。そのため知床では数少ない、心ゆくまで静か

どと混生しています。ピンクの頭巾をかぶったような花姿は、北の流氷の天使と呼ばれるクリオネを思わせる可愛らしさです。

この花は絶滅危惧Ⅱ類(ⅤU)に指定され、道東では根室でしか会えない希少種で、晩秋には茎頂にムカゴをつくるという特異な様子をぜひ見たいものです。

に植物を楽しむことができる場所でもある。

知床は流氷が北海道で最初に接岸し、最後まで残ることが少なくない。またオホーツク海沿岸では例外的に積雪量が多い。しかし、強風で雪が飛ばされてしまう海岸では雪解けが早い。そのため、ときには流氷と花という取り合わせの妙もここでは楽しむことができる。

東北海道、オホーツク海沿岸で流氷と花の取り合わせとなるとキタミフクジュソウを想像する方が多いだろう。岩の背後の、シカが自由に往来する林では確かにシカの好まないキタミフクジュソウの花はよく目だつ。しかし意外なことに、この岩ではキタミフクジュソウは見られない。その代わりに、エゾエンゴサクやキバナノアマナが流氷が去るのを見送ることになる。どちらもエゾシカの被食を受けやすい種で、この岩の個性をよく表しているといえよう。

その他にもエゾヨモギギクやシコタントリカブトなど東北海道をいろいろ興味深い植物は数多く、訪れるたびにこんな種もあった